

日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution

191号

2024年6月発行

■ 巻頭特集

令和5年度 第2回リハビリテーション研修会

令和6年度診療報酬・介護報酬同時改定説明会

■ 委員会報告 医科・歯科連携推進委員会 研修委員会

■ REPORT 事務長に求められる資質と育成について

■ REPORT プレジデントセミナー とうなる日本の医療、どうする病院

ZOOMIN 会員病院・施設

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立リハビリテーション中央病院



一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

CONTENTS

- 2 **巻頭特集**
令和5年度 第2回リハビリテーション研修会
令和6年度
診療報酬・介護報酬同時改定説明会
- 15 **巻頭言**
互いの理解を深め支え合っていく
岡本 隆嗣
- 16 **REPORT ❶** 事務長に求められる資質と育成について
日本リハビリテーション病院・施設協会 研修委員会(実務班)
- 18 **REPORT ❷** プレジデントセミナー どうなる日本の医療、どうする病院
相澤 孝夫
- 22 **委員会報告** FROM LEADERS
若林 秀隆 佐藤 吉沖
- 24 **連載** 病院・施設におけるコーチングの活用
質問が未来をつくる
井上 清美
- 26 **トピック ❶** 認知症ケアお悩み解決塾 1on1研修報告
田中 志子
- 28 **トピック ❷** 地域における臨床研究のススメ12
傾向スコアを用いた交絡への対処方法(概要編)
紙谷 司
- 30 CURRENT TOPICS 厚労省関連ニュース
- 33 **ZOOM IN** 会員病院・施設
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
兵庫県立リハビリテーション中央病院(兵庫県)
- 38 **Information**



互いの理解を深め 支え合っていく



岡本 隆嗣

日本リハビリテーション病院・施設協会 理事
医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 理事長・病院長

私が大学時代に医学の勉強以上に心血を注いだアメリカンフットボールは、「投げる」、「走る」、「捕る」、「ブロックする」などの専門ポジションから構成されたチームで戦う。資格によってできる行為が限定され、役割が異なるリハビリテーションのチームとの共通点が多い。

これらの経験を踏まえ、「チームに必要な要素」とは、①専門性、②共通言語、③共通知識、④情報共有、⑤相互理解、⑥メンバーシップ、⑦リーダーシップの7つだというのが私の持論だ。①②③は教育と個人の努力によって磨かれ、④⑤はシステムやコミュニケーション、⑥⑦はチーム運営に欠かせないマネジメントの部分である。

2020年からのコロナ禍においても、システムの工夫やオンライン技術の進歩によってこれらはある程度機能したが、⑤の相互理解だけは、業務中のコミュニケーションのみでは補いきれず、圧倒的に不足した。未だにお互いのことや素顔を知らない同士が現場で一緒に仕事をしている。

研修医の頃、先輩看護師に話しかけようとする、「今、配薬業務中なのかわからない？ 後にして」とピシャッと言われたことがある。以降、相手がいつどのような仕事をしているのか、よく観察するようになった。「お互いの仕事」だけでなく「お互いのこと」も知らないと、気遣いや、一歩踏み込んだ議論・協業は十分にできない。パ

ンデミックによって奪われた相互理解のための機会や時間を、何とかしてつくらなければ、チームアプローチは成熟しない。これは院内はもちろん、地域ではなおさらである。

令和6年度の同時改定で焦点が当てられた1つに「リハビリテーションにおける医療・介護連携」がある。例えば医療側は、退院前の訪問指導や食事情報の提供ができていない、介護側は医療機関が作成したリハビリテーション計画を入手せずに行われている、そもそも両者を結ぶ退院前カンファレンスが開催されていないではないか。長年指摘され続けていた課題にとうとうメスが入った。

患者さんの生活は医療・介護の両面から支えられている。本来は患者を中心としたチームの一員であるはずなのに、名前も顔も知らず、お互いが何をやっているのかさえ知らない。このような状況に対し、医療には「患者の生活」の視点、介護には「医療の継続」に重きが置かれ、医療・介護連携強化策が導入された。

連携を円滑にするためには、情報共有や相互理解をベースにした多職種、多施設のコミュニケーションが欠かせない。運動器単位制限や専従医制度廃止によって回復期は厳しい状況に置かれたが、なくなってしまったわけではない。医師を中心にもっと地域に出かけ、支える仕組みを再構築するチャンスととらえたい。

**※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。**

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<http://rehakyo.jp/about-join>